

# 概念モデルを用いた

## 将来のシステム要求を抽出するための手法の提案

NTT DATA

後藤 秀雄

gotouhdo@nttdata.co.jp

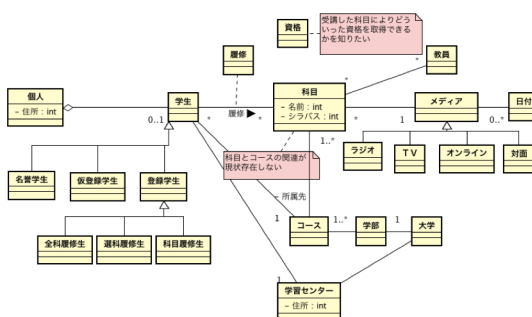
### 開発における問題点

過不足なく要求抽出を行うことは、下流工程での手戻りをなくし、開発効率と信頼性を向上させる上で極めて重要であり、それを達成するために開発者を支援する様々な手法が存在する。ただしシステム開発には予算や時間の制限があり、必ずしも要求者から積極的かつ的確な要求が出てくるわけではない。

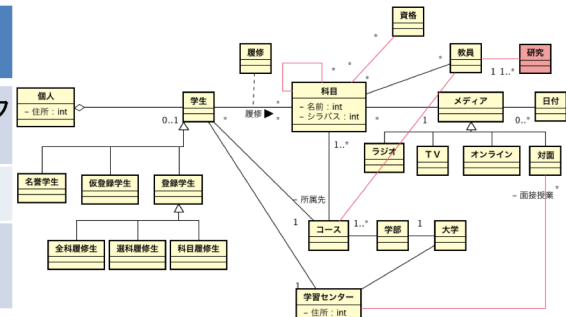
### 手法・ツールの適用による解決

開発者が発生し得る要求を検討し、積極的に提案を行えるよう、対象ドメインを的確に理解するために役立つ概念モデルの作成と、ユーザから見たシステムとの関係や振る舞いなどをモデル化する技術であるシナリオ分析を行うことで新規要求を抽出する方法を提案する。

## 概念図の更新手順



ペルソナ	新規要求
会社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス上の教員名から、教員の研究内容へのリンク</li> <li>・学習センターで受講可能な面接授業の一覧表示</li> </ul>
看護師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格を取得するために必要な講義のサジェスト機能</li> </ul>
退職者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講履歴や、閲覧履歴を基にしたレコメンド機能</li> <li>・コースに所属している教員一覧</li> </ul>



①現状の概念図の作成

②代表的なペルソナによるシナリオ分析を実施

③概念モデル図の修正

## 手法の検証

手順の適用は、放送大学教務システムの1ユースケース「インターネット出願」に対して実施。同システムの次期更改用の要求仕様書が確認できたため、本手順の最終成果物である修正後の概念モデル図と次期更改用の要求仕様を比較し手順の有効性を検証。

本手順では、要求仕様書には上がっていない要求を抽出できた。

類似システムでも本手順を適用することで新規要求を抽出することが可能か検証。

本手順では、概念モデル図の修正を行えることを確認。

## 今後の課題

本手順を通して、開発者から新規要求を提案できることを示した。

しかしシナリオ分析時の形式的なルールを決定できていないため、開発者によっては成果物の品質が異なることが想定される。また今回の検証は一人の開発者による検証のため、複数人の開発者で検証を実施した際も同様の効果を得ることができるか継続して検証を行う。